

## 第6回 北海道C-1 トーナメント 開催要綱

- ◆主催 一般社団法人 北海道チャンピオンシップ協会
- ◆特別協賛 北海道日刊スポーツ新聞社 トップインターナショナル株式会社
- ◆協力 チャンピオンシップ 2017 サポートカンパニー
- ◆方式 3ラウンド制 出場チームは最低 2 試合消化 ラウンド1 ゴールデンウィーク中 3 チーム総当り戦 1 位がラウンド2へ進出 ラウンド2 5月中旬～下旬 3 チーム総当り戦、又は 4 チームトーナメントで 1 位がファイナルへ進出 ファイナル1 (準々決勝) 6月上旬 ファイナル2(準決勝・決勝) 6月末 会場未定
- ◆対象 北海道内の小学生野球チーム
- ◆会場 運営本部が指定 (道内一円)
- ◆選手 小学 6 年生以下の男女 (道内在住) でスポーツ障害保険に加入していること
- ◆上位チームは下記大会の出場権を獲得 (4チーム) 第 7 回龍馬旗争奪西日本小学生野球大会 (7 月下旬・高知県開催) 第 39 回全日本都市対抗少年野球淡路島大会 (8 月中旬・兵庫県淡路島開催)
- 参加料 協会パートナーチーム 12,000 円 その他のチーム(オープン参加) 15,000 円
- 支払い期日 平成 29 年 3 月 20 日まで
- 振込み先 名義 一般社団法人北海道チャンピオンシップ協会  
北海道銀行 美唄支店 (普) 0 6 9 7 0 0 0
- ・組み合わせは運営本部が抽選の上、4月上旬にホームページ上で公開。
- ・本部は参加チームが勝ち進んでいる他の大会のスケジュールを十分考慮する。
- ・開会式は行わない。数の関係上、ラウンド1のシードチーム(不戦勝)を選定する場合がある。
- ・シードチーム選定は協会本部が独断で行うものとし、前年の U-11 対象の公式戦全てを参考とする。
- ・参加希望各チームはラウンド1 参戦可能日を早めにお申し出ください。

この要綱は全部で 3 ページあります。

大会規則 適用規則 2017 年公認野球規則及び特別規則を適用する。

特別規則 1. 登録選手は 20 名以内とし、選手、監督は同色、同型、同衣装のユニフォーム、アンダーシャツ、野球帽、ストッキングを着用しなければならない。ベンチに入る大人は 5 名以内とする。

2. 試合中の抗議は、監督以外は認めない。

3. 投手は変化球を禁止する。変化したか否かは審判員が判断する。

4. 選手の手袋着用は可。グラウンドコートの着用は禁止 (ベンチ内は可)。ただし、気温が

低すぎる場合 は審判の判断で着用を許可することがある。

5. 試合は全て時間制限なしの 7 回戦。ただし 4 回終了以降、7 点差以上の場合はコールドゲーム。

6. ラウンド1、2における三つ巴戦（総当たり戦）については次のようにする。 7回終了し、同点の場合は引き分け。勝者には勝ち点2、引き分けは両チームに勝ち点1を与える。

（1）勝ち点が多いチームが次ラウンドへ進出。 （2）勝ち点が並んだ場合の順位のつけ方 ※a 得失点差（総得点マイナス総失点）の多い順 ※b aで順位付けしても2チームが並んだ場合→2 チームともに次ラウンドへ進出 ※c aで順位付けしても3チームが並んだ場合→日を改め再試合（総当たり戦）を行う。

※※重要 得失点差の計算をする場合→ コールドゲームの試合は全て 7 対 0 で計算する。

7. トーナメント戦では 7 回裏終了時点で同点の場合、特別促進ルールを適用。次のように行う。先頭打者は自由とし、その前の打順の二人を二塁、三塁に置き、無死から攻撃開始とする。

8. 試合時間が 2 時間半を超えた時点、あるいは 2 時間半時点で決着がつかないと予測できる場合には、引き分けとする。区切り時間の判断は球審に一任する。トーナメントの場合は後日再試合とする。

9. 試合予定時刻を過ぎても到着しない（連絡がない等）場合は棄権としたものとみなす。

10. 試合前に球審へオーダー表を2部提出すること。放送設備がある会場では3部提出。

11. 試合の進行に係るすべての権限は球審にある。

12. 使用球は、トップボールC号とし、大会運営本部、またはホストチームが用意する。

13. ロージンバックは各チームが用意する。

14. 同じチームが連戦になる場合、最低 20 分～30 分は時間を空けること。大会の運営について当協会主催大会では次の点を調整しながらスケジュールを組んでおります。

・大会出場チームは最低2つの試合ができる。

・違う地区、支部のチームを対戦相手とする。または他の 大会で最近対戦した（する予定のある）チームを極力避ける。以上を実現するため、当協会主催大会は 序盤戦において「3 チーム総当たり戦」あるいは「4 チームトーナメント」を複数の会場で実施すると いう独自のスタイルをとっております。例えばこういう感じです。「ラウンド1」9 6 チームを3 2 グループに分けて総当たり戦。→→「ラウンド2」ラウンド1の勝ち残り3 2 チームを8 グループに分けて4 チームトーナメント、または3 チームリーグ戦 →→「ファイナル」準々決勝以降は通常トーナメント そして、「ラウンド1」「ラウンド2」では、運営管理をホストチームにお願いしております。ホストチームについてホストチームとは「グラウンド（試合会場）を提供し、会場の運営管理をするチームのことで、ホストチームは会場を提供し下記の役割を果たすことで、移動せずに試合を消化することができます。ホスト希望のチームは事前にお申し出ください。ホストチームは協会パートナーチームに限ります。

- ・会場づくり～グラウンド整備、ライン引き
- ・来場チームの誘導
- ・試合消化管理～対戦が正しく行われているかの確認（来場チーム、審判の管理等）
- ・試合球（**トップボールC号**）を事前に準備ください。（協会で購入斡旋。後日、現物返納。）
- ・球審用のマスクを一つ用意してください。審判について 球審 1 名を協会を用意します。他 2～3 名の塁審を各チームから出していただきます。（コーチや経験のある父兄等を事前に準備願います。）自チームに関係のない試合の塁審を行っていただきます。準備できないチームは事前にお伝えください。その他 当協会の大会は、地区の垣根を越えて技術交流する場です。各チームは時間をかけ移動し、試合します。どういう結果になってもお互いをリスペクトし、次へ繋がる有意義な時間としてください。

- ・ロージンバックは各チームで用意してください。
- ・選手の到着が遅れた場合でも、30分以上のウォーミングアップ時間を必ず与えてください。（参考）

#### 塁審について

1. 姿勢 経験の多い方に助けをもらいながら、公平なジャッジで試合を成立させるよう努めましょう。当協会の試合は時間制限なしの7回戦です。常にスピードアップを徹底させてください。判定には自信を持つこと。一番近くで見て、そう判断した。その事実を覆すことは誰にもできません。
2. ジャッジのポイント
  - ・ジャッジを下す前は、停止してプレイを良く見ること。走りながらのジャッジはだめ。
  - ・「セーフ」の場合はすぐアクション。「アウト」は捕球等動作が完了したのを確かめてから一呼吸 おいてアクション。
  - ・フェアは発声しない。ファールのときだけ「ファウルボール」と発声する。
  - ・ホームから一塁ベース、三塁ベースまでの打球のフェア、ファウルの判定は球審がする。
  - ・内野フライ
  - ・内野ライナー
  - ・インフィールドフライ
  - ・故意落球の判定は球審にまかせましょう。
3. ボーク あきらかに走者が不利益を受けた場合でなければ、スルーして下さい。あるいは注意をして下さい。ただし、セットポジションで静止しなければ、注意なしでボークを取ってください。これは少年野球で最も多いボークです。厳しく徹底させてください。